



くすりと健康

一般社団法人
神戸市薬剤師会

不整脈

心臓は、規則正しくリズムを刻みながら、全身に血液を送っています。そのリズムは1分間に50〜100回程度で、心臓にある「洞結節」という場所で弱い電気信号が作られて、「房室結節」に伝わり、そこから「伝導路」という電気の通り道を通して、心臓全体に送られて、規則正しく収縮（心臓から血液を送り出す）と弛緩（心臓に血液を溜める）を繰り返しています。不整脈はこのリズムが乱れて、心臓の鼓動が早くなったり（頻脈）、遅くなったり（徐脈）した状態のことを指します。健康な人でも1日に1回ぐらいは不整脈が起こっているといわれており、不整脈が見つかったからといって必ずしもすぐに対処しなければならぬわけではありません。しかし、命にかかわる危険な不整脈もあるので、医師の診察を受けて危険な不整脈ではないかどうかをきちんと鑑別する必要があります。

徐脈は、洞結節から発生する電気信号が遅くなる「洞性徐脈」や洞結節から信号が送られない「洞不全症候群」、信号がうまく伝わらない「房室ブロック」などでおこります。脈が極端に遅くなると、脳に十分な栄養を送れなくなり、ふらついたり、めまいを感じたりすることがあり、ひどい場合には意識を失うこともあります。

治療が必要な徐脈では、ペースメーカーという心臓のリズムを整える小さな機械を体の中に埋め込んで治療をすることが一般的です。

頻脈は、洞結節からの電気信号が速くなる「洞性頻脈」や洞結節以外の場所で電気信号が作られることで起こる「心房細動」や発作性上室性頻拍「心室頻拍」などで起こります。脈が速すぎると、心臓に血液がたまる前に血液を送り出そうとするために、十分な量の血液を送れずに血圧が下がり、動悸がしたり吐き気を催すことがあります。

頻脈の治療には、薬が使われるこ

とがあります。心臓は筋肉でできており、筋肉が収縮と弛緩を繰り返すことで心臓は動いています。その筋肉には、ナトリウムやカリウム、カルシウムのイオンが必要で、それらのイオンが筋肉の細胞に入ったりすること、筋肉は収縮したり、弛緩したりすることができません。そのためイオンの出入りを制限する薬を使うことで、頻脈の治療をおこなうことができます。薬物療法以外では、洞結節以外の場所で起こる電気信号の発生を抑える「カテーテルアブレーション」や心臓に異常が起こったことを感知して作動する「植込み式除細動器」などがあり、現在ではこちらでの治療が薬物療法より主流になってきています。

（北区）薬局エヒラファーマシー

松本博志

